

一般質問通告書

受領日時 令和2年11月30日 午前9時40分

7番 氏名 佐々木 仁茂

質問項目	質問の要旨
1、町長は来年の町長選挙出馬を考えているのか	<p>(1) 町長在職「4期16年」は長いといえば長いし、多選の域に達したと言えるのではないかと。</p> <p>これまでの町長の政治姿勢を振り返れば、町政の安定と町民の融和においては、一定の役割を果たしてきたと思う。しかしながら少子高齢化・人口減少・急激な過疎化など地方自治体の共通課題が立ちはだかる現状で、町総合発展計画を中心とした施策の実効性については、道半ばと言わざるを得ない。町長は4期16年をどのように振り返り、5期目を目指すのならばどのような決意で臨むのか。</p> <p>また多選については、どのような考えをもっているのか。</p>
2、県オリジナル新品種「サキホコレ」の栽培の今後について	<p>(1) 長年待ち焦がれた「あきたこまち」に次ぐ、県オリジナル新品種「サキホコレ」が、いよいよ2022年度に市場デビューすることが決まった。</p> <p>秋田県としては、隣県の「つや姫」「青天の霹靂」「銀河のしずく」など食味ランキング特A常連ブランド米に後塵を拝してきたが、「サキホコレ」は「コシヒカリ」を超える極良食味品種として今後、米どころ秋田の誇りをかけた栽培が始まる。</p> <p>県では、新品種の特徴から栽培地域を限定、「生産者要件と栽培要件」を厳格にし、全国のトップブランドの地位を確立するため、「確かな品質・食味」で市場に安定供給できる生産体制を構築していくこととしている。</p> <p>2022年の初年度は、県内の圃場計800ヘクタールで4千トンを生産する予定。その内「JAあきた湖東」管内では、生産者34名で42.6ヘクタールの栽培面積となり、当町では生産者11名で10.7ヘクタールの栽培となる。</p> <p>町は今後ブランド米「サキホコレ」の当町での栽培に、どのような支援と対応をしていくのか。</p>

3、本町の林業政策
について

(1) 国有林の活用と地域の活性化について

国有林は、民有林の奥地に位置し、国有林事業では現在、民有林と国有林が連携することで施業地の一体化を図り、接続する効率的な路網整備と森林施業の実施、木材の供給等を推進している。また、国有林の所在地域における産業の振興及び住民福祉の向上に資するよう、貸し付け・売払い等による国有林の活用及び林野庁が地域と連携して、地域に根ざした事業の展開を喫緊の課題としている。

本町でも地域活性化の一環として、国有林の活用策及び林野庁の「林業成長産業化地域創出モデル事業」等の誘致に取り組むよう提案するが、町長の考えを伺う。

(2) 再生林の推進と助成について

本町の民有林のスギ人工林は 80%を占め、本格的な成熟期を迎えている。特に昭和 30 年代に植えた杉人工林を中心に収穫期に入り、蓄積量も増加してきている。しかしながら、近年は木材の自由化施策に伴う価格の低迷と再生林の補助金が安いこと、伐採後の造林・育林コストを賄える水準になく、森林所有者の収穫伐採(皆伐)の実施を困難にしているのが実情である。

このような現状の中で秋田県では、今年 6 月、県、市町村、関係事業所等による再生林対策プロジェクトチーム地域協議会を立ち上げ、現状と課題等を分析し、令和 4 年度スタートに向けて、施業の集約化や主伐と造林を一体的な工程で行う作業の拡大等を含めて、秋田県単独による再生林の新規事業の創設を検討している。

森林の機能を十分に発揮し、適切な整備が行われ、健全な森林として将来接続可能な資源を維持するためにも、計画的で適切な収穫伐採と再生林は最重要な課題であり、本町の再生林を推進するための対応策について、町長の見解を伺う。

(3) 五城目森林組合の合併について

五城目森林組合、男鹿森林組合、湖東森林組合の合併は、これまで幾度と協議されてきたが、最終的には平成 22 年に債務の関係から一時中断していた。その後、令和に入ってから「森林環境税」・「森林環境譲与税」が制度化され、新たな「森林経営管理制度」が施行されるな

	<p>ど、林業政策、林業経営に関わる林政の重要な転換期を迎えたため、3組合が合併検討委員会を再開することを決議し現在進行中である。</p> <p>五城目森林組合は、組合員数 640 名、組合員所有面積 6,100 ヘクタールで民有林の約 70%に該当し、本町の令和 2 年度「町有林管理及び調査」や「森林経営管理制度に伴う林況調査」を業務委託している。また、合併協議の推進に当たっては、経営規模や独自事務所所有など、これまでの合併協議の経緯から、対象 3 組合の中心的役割を五城目森林組合が担うことになるのではないかと。</p> <p>森林組合は、地域の森林施業の経営の担い手として林業生産力の増進を図り、森林所有者の所得の向上と、森林・林業の特質性を生かして地域社会への貢献度を高める使命がある。森林組合の合併や経営基盤の強化などの取り組みの実効性に向けて、関係市町と連携し、的確なフォローアップと指導が必要と思うが、町長の考えを伺う。</p>
<p>4、森山地区治山事業工事完了後の課題について</p>	<p>(1) 平成 23 年 6 月に森山下で発生した土石流に端を発した「森山地区治山事業」の関係工事が今年完了した。平成 23 年以降、幾度となく大雨被害に見舞われた地元住民の要望に応え、県と町は適切な設計の下に、予算を投じて工事を行い対応してくれた。</p> <p>しかし令和元年度から始まった治山事業工事で敷設された側溝では、土砂の流入と木々の枝葉の落下による水流の阻害、県道から上流部分の側溝の一部は神社の参道沿いであり、下流部分の側溝は町道沿いで、スクールバス停までの通学路に面していることから、様々な危険が潜んでいる。町はこのような現状を認識しているのか。また維持管理についてはどう考えているのか。</p>